

1.1.5 つどう2地縁アンケート抄—Q. 私の地縁集団—

Facebook&Twitter（現X）「とある民俗学講師（の補足メモ）」

- *環境維持：火の用心、防災訓練、道路用水等の清掃、寺社の管理、廃品回収、回覧板、募金…
- *子供関係：通学路パトロール、集団登校、ラジオ体操、運動会等、子供会…
- *お祭り（とんど、夏祭り、盆踊り、地藏盆、秋祭り、スポーツ大会…）と冠婚葬祭（葬式、結婚披露…）
- *新しい地縁組織：新興住宅地、社宅、マンション、グループハウス…旧住民と新住民の二重構造化
- *限界集落、限界コミュニティ／交流人口、コンパクトシティ

【町内会】北海道北斗市には86の町内会があり、1町内会あたり、数軒から20軒弱で構成されている。町内会費は月200円。一年に一度の周期で班長を交代制で担当する。主な内容としては毎月一回、広報誌や町内の案内を配る他、季節の催しの開催を手伝ったりする。役員による近所のパトロール、通学路の安全確保、独居老人の訪問なども行っている。以前は赤い羽根募金や町内会費の徴収を行っていたみたいだが、今はコンビニ支払いが主流となり廃止となった。

【区会】私の住む亀岡市曾我部町は、明治時代に複数の村落を統合して誕生した曾我部村がルーツで、現在も旧村落ごとに区会があります。私の住む寺区（旧寺村）には寺区会が置かれ、回覧板の管理、祭の運営、街灯の管理を行なっています。区長は区よりも下の単位である垣内（隣組と同等）から選出され、2年に1回、10カ所ほどの垣内の中から輪番で代表1人が区長を任されます。区会の他には体育振興会、営農組合、土地改良組合、森林組合、共聴TV（共聴アンテナの管理組合）が置かれており、住民から区費を収集し、各組合の予算として分配しています。寺区には曾我部分団1部3班の消防団が置かれ、建物や山林の火災の際に消火活動を行います。また、区内の住民は無量寺と桑田寺のどちらかの檀家に属しており、お布施や齋米寄せを毎年献じています。住民のほとんどが與能神社の氏子でもあり、巡行祭では、他区と輪番で神輿の担ぎ手を担い、寺区民は3年に1回、曾我部町内を巡行します。

【清掃】岡山市の私の実家が属する町内会では、例年7月中旬、地域の川掃除をする。回覧板の名簿に名前のある家庭から最低一人が参加し、各々が軍手等を準備し、朝8時頃からゴミや雑草、ヘドロ等を除去する。開始時刻は回覧板に書いてあるがこれは建前で、実際は年配&中堅チームが定刻より早い時間から作業を始めるため、定刻になる頃には大半の作業が終わっている。若手は先輩のこうした姿を見て、段々と朝早くに作業を始めるようになる。

【水利】名古屋市中村区は名古屋駅があり高層ビルが乱立する地区ですが、駅から西に車で15分くらい移動すると田園が広がり、高層ビルがデカデカと写る水田で稲作が行われる不思議な地域です（豊臣秀吉もここの農家出身）。私の家も代々稲作をしています。農業用水は近くの庄内川から引いており、農家が1年交代で水路を管理しています。しかし1次産業の衰退や急速な宅地化で、稲作に関わる若手が我が家しかおらず、秀吉の時代から続く稲作の存続が危ぶまれています。

【防災】群馬県高崎市には、小学生の保護者が主要メンバーとなる子ども町内会がある。私が所属していた井野町では、町内会主催で廃品回収や公園の草むしりといった生活のためのイベントや、夏祭りやかるた大会などの行事が行われている。中でも印象に残っているのは町の避難訓練。公民館から地域の避難所である中学校に向けて子どもから高齢者までが経路を確認しながらぞろぞろ歩いていくのだが、足の悪い人を乗せる大きなリアカーを男性たちが引っ張り、女性は公民館から持ち出した毛布などを抱えていく。その後は近くの公園で炊き出し。いろいろな人と話すのが楽しかったし、たくさん歩いた後にみんなで食べる出来立てのすいとんはとても美味しかった。

【防犯】私の住んでいる団地（大阪府枚方市）では、防犯や防災に取り組んでいます。三月に付き纏い被害に遭ったのですが、その時、防犯カメラの位置的にはっきりとわからないことが多かったため、団地で会議をした際、防犯カメラを増やしたいと父が提案し、可決されました。防犯カメラが近所に増えるらしいです。

【葬儀】私の実家は中国浙江省杭州市富陽区にあります。一戸建の家が多く、普段からお互いに挨拶したり、話をする人が多い地域です。結婚式や葬儀などの行事がある時に、近所の人たちが手伝いに来て、みんなで協力します。

【祭礼】私の地元は大分県大分市賀来では、毎年9月初旬に約1週間、「賀来の市」という祭りが開催されます。地区ごとに太鼓が付いた山車を所有しており、子どもたちが先輩や地域のおじさんたちから太鼓のたたき方を教わります。太鼓を叩くのは小学生で、小学生の時に太鼓を叩いてきた中学生や地区のおじさんたちが代々太鼓を伝えていくのが伝統です。練習を重ねて本番で演奏し、地域全体で祭りを盛り上げます。

【だんじり】私の実家がある大阪府岸和田市の岸和田市土生地区では、10月のだんじり祭りの運営で、様々な役割があります。各町に、町会長・曳行責任者、世話人、若頭、組、青年団、少年団・子ども会等があり、世話人は運営の統括、管理や他町との交渉を行い、若頭は危険な場所の警備や交通整理を行います。このほか、各町から選出された代表である年番が地区全体の運行スケジュール、パレードの順序、交通規制などを警察や行政と連携して決定します。これらの役職は年功序列で、頻繁に行われている寄合により選出されます。

【地藏盆】京都市下京区西七条東御前田町にある私の実家では、毎年8月の第3日曜に地藏盆が行われる。近所のお地藏さんの周りに突如祭壇が生まれ、お菓子やご馳走が並んだテーブルが置かれ、見慣れた景色がお祭り広場に一変する。朝一番のお坊さんのお経と法話を町内の友だちと一緒に耐えると、後は皆でお菓子を食べながら色んなゲームをしたり、福引きでおもちゃをもらったり、暗くなると花火をしたり、まさに子どもにとって夢のような1日だった。親によると、子どもや町内加入世帯の減少から縮小傾向にあったものが、コロナ禍で中止となり、そのまま廃止という流れであったが、「お地藏さん(地藏盆)をしない年は不幸が訪れる」という言い伝えや、京都独自の伝統が途絶えてしまうという危惧から、お地藏さんにお参りするだけの簡素な儀式として復活し、今も続いているらしい。子どもの身になってみると、そこだけ残されても…と同情するが、少ない世帯で頻繁に回ってくる世話役の仕事も大変なのだと母はいう。

【子供行事】静岡県掛川市の鳥居町は、町内が一組、二組、三組…と分かれ、その組分けで回覧板を回したり、避難訓練の時に相互に助け合ったりすることが取り決められていました。独自の初盆行事として「おっちゃかちゃん」というものもありました。1572年の三方ヶ原の合戦の犠牲者を弔うために始まったとされ、400年以上続いています。児童たちが楽器を持ちながら町内を練り歩き、一軒一軒を訪問してはお金を貰うという神イベントです。1～5年生は自分の学年×100円しか貰えないのですが、6年生は余ったお金を人数分で山分けします。私が6年生の時は、それがなんと一万を超えました。こういった利益があるからこそ、「先祖を弔うために児童が町中を練り歩く」という意味の分からない伝統が存続してきたのかと思うと、なんだか皮肉なようにも思えてきます。

【マンション】私の実家は静岡県熱海市にあるマンションで、住人は70人ほど。2カ月に一度のペースで総会があり、代表が集まってマンションの運営について議論します（父が会長）。議題は、付属の共同温泉の管理など様々です。

【新旧住民】神戸市中央区熊内町は、新幹線の新神戸駅の近く、北には布引の滝が流れる六甲山系の山の麓の静かな街です。小学校単位で区切られ、雲中(小学校)地区と呼ばれています。地域には雲中街づくり協議会があり、住民がより暮らしやすくなるように、小学校を中心に、婦人会、老人会など、様々な活動があります。夏祭り、盆踊り、餅つきなどの年中行事のほか、日常でも地域福祉センターなどで三世代が触れ合う機会が多いです。近年、アジアの様々な国から移住してきた人たちも多いため、ルールを伝える機会や、外国人の子どもたちへの無料学習教室もあるようです。

【！】私の住んでいた島根県安来市の町内会は、年1回のお薬師さんという行事や、小学生の下校見回り、地域運動会への参加などの活動がある。母に聞いたところ、町内会への参加は面倒でお金も寄付しないといけなかったため、脱退する家もあったようだが、そうした家には祟りがあると言われ、脱退しないようにしているらしい、ということだった。